

内科専攻医を 目指しているあなたへ

～東京病院の場合～



独立行政法人 国立病院機構

東京病院

National Hospital Organization
Tokyo National Hospital

東京病院での研修のメリット

- 1. 結核治療を経験できる数少ない病院です。**
結核は誤嚥性肺炎、抗生剤の反応の乏しい肺炎、原因不明の発熱など経験がないと診断がかなり遅れるケースがあります。
- 2. 豊富な専門スタッフのもと、幅広い症例を経験できます。**
感染症（結核、非結核性抗酸菌症、肺真菌症、HIV等）、喀血、間質性肺疾患、アレルギーどの分野でも第一線で働く人がいるからこそ幅広い症例を経験できます。
- 3. 呼吸器で200床＋結核病床100床あるために様々な症例が集まります。**
カンファでは他の人の経験している症例をみることで幅広い経験が出来ます。
- 4. 当直制なのでオン・オフがはっきりします。**
- 5. 専修医の横のつながりができます。**
様々な大学出身の方が集まっており門戸はオープンです。



呼吸器週間予定表

	AM 8:15～	AM 9:00～	PM	PM 5:00～
月曜日		気管支鏡		一般呼吸器病棟回診 新患 conf.
火曜日	肺癌conf. (呼吸器外科合同)	気管支鏡	胸腔鏡	
水曜日	一般呼吸器conf.	気管支鏡 気管支動脈塞栓術	難治症例検討会 気管支動脈塞栓術	第4水曜日 CPC
木曜日	結核conf.	気管支鏡	胸腔鏡	結核病棟回診 新患conf.
金曜日	抄読会	胸腔鏡 気管支動脈塞栓術		呼吸器病理conf. (月1回)

国立病院機構東京病院内科専門研修プログラム

プログラム統括責任者からのメッセージ



東京病院副院長 松井 弘稔

内科専門研修の一時期を東京病院ですごすメリットは、呼吸器疾患への対応に自信が持てることです。例えば、胸部レントゲンは非常に奥深い検査で、挿管チューブの位置を確認したり、ドレーンの位置を確認したりするための検査ではありません。外来で胸部レントゲンを手がかりとして、肺炎の起炎菌を推定し抗菌薬を選択し、入院するのか外来でいいのか、隔離する必要はあるのか、保健所に届けるべき疾患か、採血検査項目、喀痰検査項目は何を選べばいいのか、感染症か、非感染症か、家に帰していいのか悪いのか、すべての判断のおおもとに、1分で結果のわかるレントゲン検査があります。

東京病院に1年間いると、どれくらいの数の胸部レントゲンを見るのでしょうか。自分の受け持ち入院患者が、常に15~20人程度いて、週平均1.5枚ずつとるとして、年間1326枚。当直は月に3回で、外来5名入院3名のレントゲンをとると、288枚。

呼吸器カンファレンスが週に6回あって、10枚ずつぐらい出てくるので、約3000枚。そこには、他の研修医が持っているまれな疾患も出てきます。そこで自分が興味を持った患者さんの経過を3人ぐらい追いかけていると、300枚。同じ病棟で働いている研修医や他の病棟にも呼吸器内科研修医が合計15人程度いるので、お互いにレントゲンを見せ合って、1000枚。ここまでで、1年間の合計は約6000枚です。その中には他の病院で見る機会は少ないけど、見逃したら大変なことになる結核が1000枚程度含まれています。

さらにレントゲンのスケッチもうまくなります（たぶん）。気管支鏡も自分でできるようになるので、呼吸器以外の分野に進んでも、挿管の時や、痰を吸引するとき、異物を取るときなどに役立ちます。2番目のメリットは、いろいろな病院から多数（15人程度）の呼吸器志望の研修医が来ていて、常勤の呼吸器内科医が20人程度いるので、将来どの地域のどの分野に進んでも、呼吸器疾患の相談相手には困らないことです。内科研修の中や、呼吸器科研修の中での、自分の立ち位置、自分の強みと弱みもよくわかります。ロールモデルも見つかると思います。



呼吸器内科医になりたいわけではないのに、東京病院で呼吸器研修をしても、バランスが悪いのではないかと考えているかもしれません。それについての正解はありませんが、これまで東京病院では、多くの循環器内科医や消化器内科医を育ててきました。高齢診療科、心療内科、米国留学を目指す先生方も研修に来ています。呼吸管理やレントゲン読影などをふくめて呼吸器診療もできることで、自分の専門領域の診療にもいきると信じているからこそその選択だと思います。伝統的に、呼吸器病学とCritical Careは近い関係にあり、当院でもHCU患者の呼吸管理をするのは呼吸器科医の仕事です。

将来呼吸器内科医になりたい人はもちろんですが、呼吸器以外の科を目指す研修医の先生方も、ぜひ東京病院呼吸器内科での研修に来てください。お待ちしております。



専攻医の先生からのメッセージ

 関口 亮先生

私は東邦大学大森病院内科専門研修プログラムに所属し、内科専攻医2年目の1年間の連携施設での研修先として、国立病院機構東京病院を選択させて頂きました。東京病院では結核を含め幅広い呼吸器疾患を経験する事が出来ます。呼吸器疾患の各分野（肺癌、結核、びまん性肺疾患、呼吸器病理など）のカンファレンスがあり、他医師が経験した症例や自分が受け持った症例に対し議論する機会が多く、学べる環境が十分に整っております。また気管支動脈塞栓術や胸腔鏡を呼吸器内科医が行う施設は数少なく、貴重な経験を得る事が出来ました。

日々指導医の先生方から丁寧な御指導を頂き、充実した研修生活を送る事が出来ております。東京病院での研修も残り半年となりましたが、将来呼吸器内科医を目指す私としては、この半年間の研修は非常に価値のある研修であったと実感しております。残りの半年間も実りある研修にしていけるよう日々精進していきたいです。



 鈴木 宏依先生

関連病院での研修として呼吸器内科が主体の病院である国立病院機構東京病院で半年間の研修を行いました。非常に良い点は、一般病院では教科書通りの知識しか経験できない肺結核や非結核性抗酸菌、真菌症について、抗菌薬の選択や鑑別、検査方法の工夫など過去の経験が豊富であり、研究を並行して行う先生が多いため、専門的なアドバイスや知識を得ることができたことです。通常は治療に難渋した場合に何を考えるべきかマイナーな疾患ほど難しいですが、当院では非常に多くの治療歴があるためこれらについて深く学ぶことができました。カンファレンスも多いため他の先生の患者さんについて学ぶことができ面白かったです。また、一般の呼吸器内科では経験できないカテーテル治療（喀血・右心カテーテル）も経験でき貴重な機会を得ることができました。多くの疾患を経験したい人・上記感染の理解を深めたい人・カテーテル手技に興味のある人には特にお勧めです。



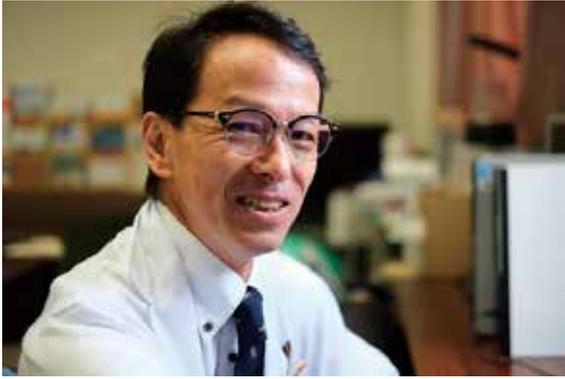
 榎原 裕治郎先生

公立昭和病院のプログラムから東京病院に出向し、半年間お世話になった、内科専攻医2年目の榎原です。心療内科志望のため呼吸器との関わりはこれまであまりなかったのですが、半年間の研修を経て多くのことを学ばせて頂きました。恐らく、呼吸器を専門としない内科医としては、かなりの実力が養えたのではないかと思います。呼吸器領域をほぼ網羅できる100人近い入院患者を受け持ち、上級医と相談しながら主体的に診療したことで、かなりの自信が付きました。東京病院はその特性から、呼吸器内科の研修を受けるにはもってこいの病院だと思います。当初は自転車で通える距離のため選んだ研修先でしたが(白状します)、思いがけず充実した生活が送れました。10月から別の病院での研修となりますが、東京病院で培った経験を武器に、頑張っていきたいと思います。



指導医の先生からのメッセージ

 守尾 嘉晃先生



国立病院機構東京病院は、昭和37年、清瀬病院・東京療養所時代から引き続き、国立療養所東京病院として発足し、以下のような診療体制を構築してきました。昭和52年、筋神経系疾患を中心とする難病病棟を開設。昭和56年、脳卒中を主体とするリハビリ病棟を開設。昭和62年、臨床研究部を設置し、結核、呼吸器感染症、エイズ及び総合リハビリテーション臨床研究を推進。平成7年、重症感染症病棟を開設。平成22年、呼吸器疾患センターを設立し、疾患別に腫瘍・感染症・びまん性肺疾患・COPD・肺循環/喀血の5部門の診療体制で運営しています。

外来または病棟診療の対象疾患は呼吸器疾患の全域に及び、多種多様の豊富な症例に接することができます。医局または病棟カンファレンスで受け持ち以外の症例を学ぶことができ、気管支鏡、胸腔鏡、気管支動脈塞栓術、右心カテーテル検査などの豊富な診療実技も習得できます。日本呼吸器学会をはじめ国内外の呼吸器臨床の研究会では、有数の研究発表を展開しています。以上のように当院は、呼吸器臨床医の研鑽を積む場として申し分なく恵まれた環境です。また東京都から、平成23年地域災害拠点病院、平成28年地域医療支援病院として承認されています。呼吸器疾患の全般的な診療以外にも地域医療の向上に努めております。優れた呼吸器臨床医を目指す先生方は、是非、当院の門戸を叩いてください。一緒に呼吸器臨床医の研鑽を積んでいきましょう。

 鈴木 純子先生

東京病院呼吸器内科は一般呼吸器200床、結核病床100床と、日本でも有数の多くの呼吸器病床をもつ病院です。呼吸器感染症、悪性腫瘍、びまん性肺疾患、アレルギー性肺疾患、稀少肺疾患まで幅広く多くの症例を経験できます。



常勤医だけでも18人の医師が所属しており、直接の上級医以外にもそれぞれのサブスペシャリティ担当の医師に症例の相談を気軽にし、各分野の最新の情報を知ることができます。また症例を経験するなかで気づいたり、疑問に思ったことを臨床研究として、豊富な臨床データで検証することが出来ることも当院の魅力です。

研究結果は学会発表、論文作成まで上級医が指導に当たります。当科は呼吸器臨床、臨床研究をやりたい先生方にとっては最適な研修病院だと思います。

 鈴川 真穂先生

長い歴史のある東京病院の前身は清瀬病院・東京療養所だったこともあり、当院は他に類を見ないほどの呼吸器疾患に関する膨大なデータ、資料、試料が保管されています。東京病院が属する国立病院機構の理念は、「医療の提供、質の高い臨床研究、教育研究の推進」とありますが、東京病院では呼吸器疾患の豊富な診療実績を礎として、貴重なデータ、資料、試料を用いた呼吸器疾患に関わる臨床・基礎研究も積極的に行なっています。若手医師でも興味を持つ先生方は、上級医のきめ細やかな指導のもと、大変貴重な研究成果を数多く公表しています。

臨床研究部という1部門を持つ東京病院での研究テーマは、呼吸器感染症、抗酸菌感染症、悪性腫瘍、びまん性肺疾患、アレルギー性肺疾患と幅広く、各分野の専門医師により、丁寧な指導を受けることができます。このように臨床の傍で、日頃生じる疑問を解決する手法を学ぶことができるのも、当院の大きな魅力の一つとなっています。



見学のお問合せ

お問合せ窓口

管理課給与係長

電話番号 **042-491-2111(代表)**

メール **217-admin-9@mail.hosp.go.jp**



見学の注意事項

- ①見学の際は名前、卒業大学と年度、現在の職場、メールアドレス、希望の日付（第3希望まで、半日の場合はその旨も）を記載の上、上記メールアドレスまでご連絡ください。
- ②見学の方が多い時期にはご案内まで時間がかかることがあります。
- ③土日・祝祭日は見学できません。
- ④白衣・聴診器・筆記用具等必要なものをご持参ください。

病院概要



独立行政法人 国立病院機構

東京病院

National Hospital Organization
Tokyo National Hospital

病院長 當間 重人

住 所 〒204-8585

東京都清瀬市竹丘3-1-1

TEL 042-491-2111 (代表)

FAX 042-494-2168

URL <https://tokyo-hp.hosp.go.jp/index.html>

研修体制

内科指導医数 22名

給 与 (参考) ※当直手当別途支給

1年次 339,200円/月

2年次 352,000円/月

3年次 364,800円/月

当 直 平均3回/月

宿 舎 あり

保育所 院内あり

アクセス 西武池袋線清瀬駅よりバス5分

